



114
A1138
1



八年六月

大天
讓正
保十
年一
行四
月

通常銀行條例發行、我左ノ通正院
仰京議相成此際ニ於テ所然施行相成
通常銀行條例頒行ハ我手正院、京議、

近頃各地方於テ金錢貸附會社ノ類設立セ、
テ願請スル者比々輩出シ其社中或ハ数十名ノ
株主ヲ徵集シ数十萬ノ資本金ヲ募積スルカ如
キ殆ト銀行ト伯仲スル者往々有之然凡其社則



ヲ閱シ之レヨ實際ヲ檢按シ其營業ノ順序如何
ヲ察スルニ本ト是レ私定ノ會社ニシテ人民各
自ノ適宜ニ任スルト勿論ニ可有之然其ノ管
業巨大ニシテ銀行類似ノ分ニ至ツテハ幾分カ
官府ノ監護保助スル所ナクシテ終ニ亦小野嶋
田西組ノ前轍ヲ踏ミ不測ノ損害ヲ被ムラシ
心然ニ可有之固テ此程ヨリ英國會社條例ヲ檢
按斟酌シ以テ通常銀行條例ヲ編纂ス今ヤ稿按
既ニ成ル故ニ古等銀行類似ノ分ハ自今悉ク之
ヲ遵奉實踐シテ以テ營業セシムルニ如ク然
レハ則自然監護保助ノ道相立隨テ不測ノ損害
ナカラシムルニ庶幾シ夫レ私定ノ會社ニ於テ
モ其ノ規則正整兵ノ營業確實ナル者或ハ無キ

ニシモ非スト雖凡概シテ之ヲ論スレハ爭競株
主等各自適宜ノ目論見ニ成ル有ニシテ其ノ創
業ノ際ハ諸事嚴肅ナルカ如シト雖凡歲月ノ久
シキ漸々トシテ以テ終ニ各自ノ所見ニ隨ヒ其
所思ニ任スルカ如キ背法戾規其ノ紀綱漸ク弛
マリ亦以テ維持ス可カラサルニ至ル之レ全ク
之ヲ維持スルニ自守ノ權力ナキニ非ル也其ノ
營業ノ際情勢ノ然ラシムル者アワテ克ク之ヲ
施為スル能ハサルニ依ルナリ苟モ此弊アレハ
則チ然ニ株主等一般ノ損害ヲ来タシ社業傾
傾頽解社ニ至ラサルヲ得ス之ヲ證スルニ即チ
小野嶋田西組ノ往月ノ壮大ヲ以テ今日ノ衰ニ
於ケルカ如シ誤銀行ニ至ツテハ甚ノ社則既ニ

條例成規アリ其ノ營業ノ種類ニ定度アリ後
ノ權理ニ至ツテ定限アリ苟モ之ヲ侵凌シ其ノ
法規ニ背反スル者アレハ官之ヲ嚴監督査シテ
以テ其ノ責ニ任セシム加之臨時不懲ノ件アラ
ハ亦濫テ之レカ檢査ヲナスガ如キ其ノ紀綱全
ク官府ノ監護維持スル所ノ者ニシテ彼ノ私定
會社ノ類ト相及スルヲ既ニ己ニ如此レ若レ又
彼ノ私定會社ヲシテ確乎不拔ノ基本ヲ立テ永
續ノ道ヲ開カシメレト欲スレハ則チ先ツ其ノ
營業ノ種類ヲ分テ而シテ該條例ニ依ラシメテ
ルヲ得ス如此クナレハ則チ社業ノ確實ハ勿論
條例中掲載スルカ如ク各地方廳官金為替方ホ
ノ道ヲ開通シ濫テ護衛送知等ノ贅費ヲ省減シ

其ノ便益不少義ニ可有之且従存官金ノ保護ヲ
悉托スルニ悉ク全抵当ヲ要スレカ如キハ假令
其手致料ヲ熟考スルモ亦猶若人ノ不好^好也ニシ
テ恐クハ永續行ハレガタキ義ニ可有之^確也^今
ヲ道奉スルモノアルモ此ノ運用ヲ乃ニモセシ
カ為^然ニ其商業ノ定度ニ^也也^り莫大ノ損失ヲ存
タレテ以テ顔敗流難ニ至ラサルヲ得ス然則官
亦濫テ其除煩ヲ受テサルヲ保セス此等ハ手竟
其ノ托スル處ノ各社ノ身代之ヲ解剖シテ以テ
悉查着問スルヲ能ハス彼ノ嵩田小野兩組等ノ
夕ニ閉鎖廢業スルモ且猶官ノ之ヲ推知スルヲ
得サルカ如キ其ノ期ニ先チ登見スル能ハサル
ヲ以テ也之ニ及シ今該條例ニ於テ其ノ抵当ヲ

大義省

要セサル所以ノ者ハ其ノ銀行ノ身代之ヲシテ
臨時嚴査監督スルノ道アルヲ以テ也且ツ彼ノ
家禄奉還ノ後ニ於テモ且ニ之ヲ奉還シタニ其
ノ産業ニ就カ如キ好目的アル者ハ實ニ僅々資
領受ノ上却テ其所用ニ困苦シ各事業就否思慮
考按ノ際ニ於テ因依荏苒空シク之ヲ無用ニ失
スル者モ有之哉ニテ殊ニ先般官省札交換ノ義
海峯行以降現然新製ノ儘ナル鮮明無垢ノ紙幣
即今ニ至ラ陸續流出スルカ如キ此等ハ畢竟永
ク民間ノ籠底ニ埋没スル者ニシテ従来世間ハ
融通ヲ流縮スルノ弊害全ク茲ニ根スベシ此等
ノ如キハ各地方於テ未タ確悉ナル預托ノ道ナ
ク確實ナル會社ノ類少キヲ以テ也今前条ノ如

ク通常銀行設立スルニ至ラハ隨テ奉還士族ノ
為メ其ノ資本施用ノ便益ヲ開キ且ハ各地方金
錢融通ノ道ヲ開洞シ實ニ一舉兩得ノ義ニ可者
之因テ此際ニ於テ漸然該例依頒行相成更無片
ハ諸會社従来ノ弊害ヲ一洗シ終ニ各自永久不
拔ノ基本相立官府理財ノ道モ之ヨリ相開ケ可
申我ト被存ト間此段更ニ相同作也

大
義
省

